

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-63	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	論国・707	精選 論理国語		

<h3>1. 編修の基本方針</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。</li> <li>● 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。</li> <li>● 論理的・批判的・創造的思考力と、他者との関わりのなかで自分の考えを深化させる力を伸ばす。</li> <li>● 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<h3>2. 対照表</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図書構成・内容</th> <th>特に意を用いた点や特色</th> <th>該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"><b>第一章</b></td> </tr> <tr> <td>学ぶということ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学問」という営みの基本について考えることを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)</li> </ul> </td> <td>p. 12～p. 19</td> </tr> <tr> <td>具体と抽象</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号)</li> <li>・ 「生きる意味を育むコミュニティー」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>・ 事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul> </td> <td>p. 20～p. 47</td> </tr> <tr> <td>普遍的な言葉</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異言語・異文化でも共通する概念について述べた評論により、我が国と他国の文化双方を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> </ul> </td> <td>p. 48～p. 57</td> </tr> <tr> <td>近代と現代の視点</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> <li>・ 「近代」「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul> </td> <td>p. 58～p. 101</td> </tr> <tr> <td>情報と社会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット上での人と人との「つながり方」を論じた評論により、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>・ 現代社会の仕組み・構造を「群衆」「スポー</li> </ul> </td> <td>p. 102～p. 125</td> </tr> </tbody> </table>	図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	<b>第一章</b>			学ぶということ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学問」という営みの基本について考えることを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 12～p. 19	具体と抽象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号)</li> <li>・ 「生きる意味を育むコミュニティー」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>・ 事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 20～p. 47	普遍的な言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異言語・異文化でも共通する概念について述べた評論により、我が国と他国の文化双方を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> </ul>	p. 48～p. 57	近代と現代の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> <li>・ 「近代」「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 58～p. 101	情報と社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット上での人と人との「つながり方」を論じた評論により、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>・ 現代社会の仕組み・構造を「群衆」「スポー</li> </ul>	p. 102～p. 125
図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所																			
<b>第一章</b>																					
学ぶということ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学問」という営みの基本について考えることを通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 12～p. 19																			
具体と抽象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号)</li> <li>・ 「生きる意味を育むコミュニティー」の創造について述べた評論により、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>・ 事物を抽象的にとらえる利点について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ真理を探究する態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 20～p. 47																			
普遍的な言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異言語・異文化でも共通する概念について述べた評論により、我が国と他国の文化双方を尊重し、国際社会の平和に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> </ul>	p. 48～p. 57																			
近代と現代の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> <li>・ 「近代」「科学・技術」について述べた評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 58～p. 101																			
情報と社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット上での人と人との「つながり方」を論じた評論により、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> <li>・ 現代社会の仕組み・構造を「群衆」「スポー</li> </ul>	p. 102～p. 125																			

	ツ」などの観点で分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)	
思考の枠組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「偶然」と「必然」を哲学的・神学的に分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> <li>・ 地球環境保全をテーマにした評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> <li>・ 戦後日本社会の構造を分析し、近代的な自由の意味を問う評論により、正義と責任などを重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第3号)</li> </ul>	p. 126～p. 169
考えの表出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的、能動的に「驚く」ことの重要性を論じた評論により、創造性を培い自主および自律の精神を養えるようにした。(第2号)</li> <li>・ 芸術作品を鑑賞する喜びを論じた評論により、豊かな情操と創造性を培うことを意図した。(第1号・第2号)</li> <li>・ 「日本語の論理性」「日本文化における『いき』」というテーマの評論により、我が国の伝統と文化、および他国の伝統と文化をともに尊重する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> <li>・ 現代社会の仕組み・構造を「安楽への隷属」という観点で分析した評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 170～p. 230
<b>第二章</b>		
異文化と普遍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 翻訳に関する評論、自文化を相対化して他文化を理解する重要性を訴える評論、学問と政治の関係を論じた評論により、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを意図した。(第5号)</li> </ul>	p. 232～p. 259
情報と知性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年急速に発達している「人工知能」についての評論、また「メディア」についての評論により、文系・理系の枠にとらわれず、幅広い分野の知識と教養を身に付けることを意図した。(第1号)</li> </ul>	p. 260～p. 289
環境と人間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人間の意志や選択の自由」についての評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度、自主及び自律の精神を養うことを意図した。(第1号・第2号)</li> <li>・ 地球環境保全について論じた評論により、生命や自然を大切にすることを意図した。(第4号)</li> </ul>	p. 290～p. 312
思索の深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「顔」を主題として精神と身体の間を問う直す評論により、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)</li> <li>・ 「無常」についての評論により、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することができるようにした。(第5号)</li> </ul>	p. 313～p. 326
考えの表出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働の意味を考察する評論により、自主・自律の精神を養うとともに、職業と生活との関連を重視し勤労を重んずる態度を養うことを意図し</li> </ul>	p. 327～p. 352

	<p>た。(第2号)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「本歌取り」についての評論により、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することができるように意図した。(第5号)</li> </ul>	
<b>表現編</b>		
報告書を書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)</li> </ul>	p. 354～p. 359
小論文を書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。(第2号)</li> </ul>	p. 360～p. 363
<b>資料編・見返し</b>		
ズームアップ・ 漱石が描いた日本の 近代	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に論理的文章・資料などで扱われるテーマの背景知識について深く掘り下げて解説し、それと関連させて、夏目漱石の描いた「日本の近代」について紹介することで、抽象的かつ論理的な思考力を身につけ、自国および他国の文化・社会への理解を深められるようにした。(第1号・第5号)</li> </ul>	p. 364～p. 373
表現キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>「思考」「動作」「感情」「物事の様子」に関する複数の語を、各語の意味の違いに注意しながら確認することで、日本語表現の奥深さを実感し、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにした。(第5号)</li> </ul>	p. 374～p. 383
見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。(第1号)</li> </ul>	前見返し 後見返し
<b>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育法第51条第2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるような「解説」(コラム)を随所に掲載した。</li> <li>学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。</li> </ul>		

# 編修趣意書

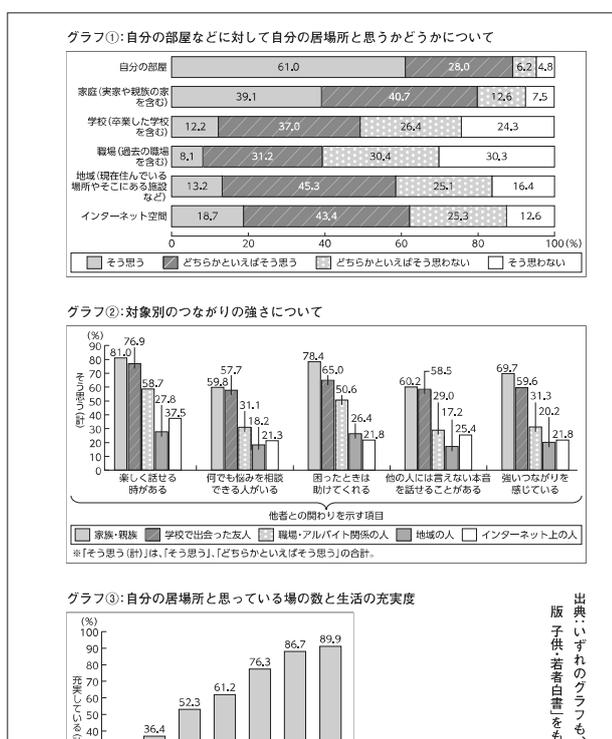
(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
103-63	高等学校	国語	論理国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	論国・707	精選 論理国語		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### (1)教材

① 現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。



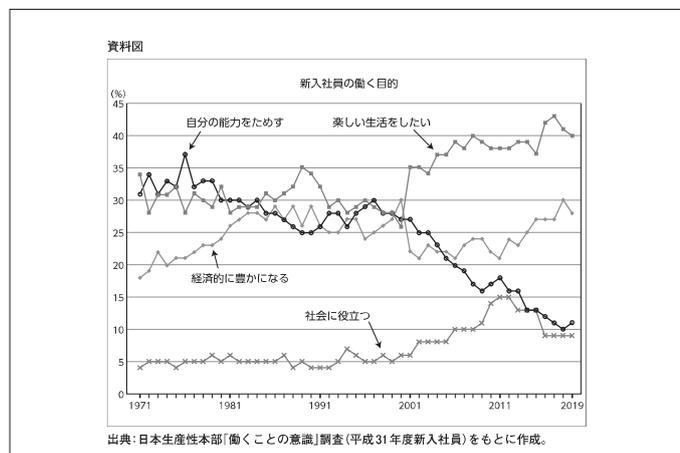
## 〈近代〉の入口と出口の間

吉見俊哉

近年、大学でネット上の記事をコピーして論文を作成してしまう学生のことがよく問題になる。学位論文でこの種の剽窃をしたことが後で発覚し、学位取り消しなどの措置がとられたケースもあるという。単純な切り貼りではないにせよ、文章作成にネット情報を参照する人は激増している。ネット検索が頻繁に活用されるのは、図書館での調べものや現地取材よりもずっと手軽だからである。これを好ましく傾向と見る人々は、そもそも論文作成でネット情報を利用するのを禁止すべきだと考えるかもしれない。他方、ネット検索と図書館の調べもの間に本質的な違いはないと考える人もいる。昔からどんな引用もなしに文章を書くことは稀だったのだから、かつて多くの人が図書館でしていたことを、今ではネットで行うようになっただけだ、と。

確認しておきたいのは、出版による知識とネット上の知識の傾向の違いである。何よりも図書館の本は、誰もが自由に出版できるものではない。各分野で定評のある、あるいは

② 多彩な言語活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力、目的に応じて書く力を身につけられるようにした。



### 言語活動

- 「労働は、一人の人間が社会的な人格としてのアイデンティティを承認されるための、必須条件なのである」(三浦・4) という筆者の主張を、わかりやすく説明してみよう。
- 筆者の「労働」についての主張に対して、自分の意見を四百字以内で書いてみよう。
- ①(三浦)は、次の資料図と資料文②(三浦)の内容をもとに、働く目的について書かれた意見文である。「△」の内容について、次の観点から意見交換をしてみよう。
  - ・資料を正しく読み取れているか。
  - ・文章のまとめ方は論理的か。

③ 比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、教材の理解がより深められるようにした。

探究の扉 — 比べ読み —

次の二つの文章を読み、科学のあり方について自分の考えをまとめてみよう。

### 科学の現場

坂井克之（さかい かつゆき）  
一九六五～翌年、兵庫県生まれ、医学博士。

科学研究においては、検証されるべき仮説の設定が大切になります。実験研究において大切なのは最初の問題設定です。仮説検証型の研究において、その目的をさらに明確なものにするために対立仮説が設定されることがあります。Xという出来事に対して二通りの解釈が可能である。このAという考え方を研究者は主張したいのですが、そのためにもう一つのBという考えが成立しないことをも証明しなければなりません。ここでこのAという仮説と、Bという対立仮説が相容れないものであることが大事です。対立仮説が成り立つならば、当初の仮説は否定されるわけです。

この科学的仮説の考え方は、日常の場における意見の相違の調整とは全く趣を異にするものです。交渉の場面、国会審議、あるいは法廷などでは対立する二つの意見をすり合わせるということが通常なされます。ここで対立しているのは二つの意見であって、いく理論的に見えた主張が繰り返られようとしても、それは主観に基いた意見です。また同じ状況を再現することでどちらの意見が正しいかを判定することはできません。仕方がないので現時点での妥協点を探り、これを解とするわけです。

科学においては、基本的に妥協点はありません。二つの

### 科学と生命

中屋敷均（なかつしき ひとし）  
一九九四～翌年、福岡県生まれ、農学博士。

科学と生命は、実はずも似ている。それはどちらも、その存在を現在の姿からさらに発展・展開させていく性質を内包しているという点においてである。その特徴的な性質を生み出す要素は二つあり、一つは過去の蓄積をきちんと記録する仕組みを持っていること、そしてもう一つはそのから変化しバリエーションを生み出す能力が内在していることである。この二つの特徴が漸進的な変化を繰り返すことを可能にし、それを長い時間続けることで、生命も科学も大きく発展してきた。

だから、と云つてよいかよく分からないが、科学の歴史を紐解けば、たかさんの間違いが発見され、そして消えていった。科学における最高の栄誉とされる「ノーベル賞を受賞した業績でも、後に間違っていることが判明した例もある。

ノーベル賞を受賞した業績でも、こんなことが起こるのだから、多くの「普通の意見」であれば、誤りであった事例なく、実は教養にいまがない。誤り、つまり現実と合わない、現実を説明していない仮説が提出されることは、科学において日常茶飯事であり、二〇一三年の「ネイチャー」誌には、医学生物学論文の七十％以上で結果を再現できなかったという衝撃的なレポートも出ている。

しかし、そういった玉石混交の科学的知見が称されるものの中でも、現実をよく説明する「適応度の高い仮説」は長い時間の中で批判に耐え、その有用性や再現性ゆえに、

(2) コラム的要素

① 「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読んだり書いたりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。また、教材の読解から発展させて、教材のテーマについて理解も深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

### ズームアップ

#### 「近代」とは何か？

1 「近代」とは「古代」「中世」の後の時代  
「近代」とは一つの時代区分であり、「古代」「中世」の後の時代を指す。近代の期間については諸説あるが、十六世紀の宗教改革の時代から、二十世紀半ば頃までを指す場合が多い。そして、二十世紀半ば以降を、「現代」とすることが多い。

2 「近代」とは「人間が主役」の時代  
近代とは、一言で言うと、「個々の人間が主役の時代」である。このことは、以下の視点からとらえることができる。

(1) 人間と自然との関係  
近代より前の人間は、自分を自然の一部と感じていたと言われている。しかし、近代人は、自分たち人間を自然界の他の動植物から区別された特別な存在だと考える。近代とは、人間が自然から分離して世界の「主役」になった時代である。

(2) 人間と社会との関係  
近代より前の人間は、血縁的・地縁的共同体、あるいは身分制度に縛られていた。自分たちの血縁・家系を常に意識し、自

チェックポイント「8」

多面的な視点

道歩いている、すぐ先の交差点で自転車と歩行者がぶつかる事故を見かけたとする。警察はこれを一件の事故として扱う。しかし自転車の運転手、歩行者、警察、そしてそれを見かけた自分の印象が一致しないことは多い。一つの状況をそれぞれの視点でとらえるためである。

文章で扱われる話題や価値観も同じである。書き手には書き手の視点があり、読み手には読み手の視点がある。文章を読むときに大切なのは、読み手としての自分の視点だけにとらわれず、書き手の視点を意識することである。

ここには、あるべき姿にの意見のすべの未来を真摯両者の論点二つの軸を意識論や思考を

(3) デジタルコンテンツ

① 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容						該当箇所 [頁]	配当時数		
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等				書く	読む	
		(1)	(2)	(3)	A 書くこと (1) (2)	B 読むこと (1) (2)					
学ぶということ	学問の発見	イ	ア				ウ	ウ	12		2
	【チェックポイント1】主張の明確化	ウ							19		
具体と抽象	手の変幻						エ	ア	20		3
	【ズームアップ】芸術作品の「多面性」			ア					27		
	「内的成長」社会へ						オ	イ	28		3
	【ズームアップ】資本主義社会と本当の「豊かさ」			ア					35		
	「具体」から「抽象」へ						キ	ア	38		
【チェックポイント2】定義と抽象化	ア・イ								46		
普遍的な言葉	国境を越える言葉						キ		48		2
	【探究の扉】ニュースとコミュニケーション						エ	イ	53		
近代と現代の視点	未来世代への責任						カ	イ	58		3
	【ズームアップ】地球環境問題			ア					64		
	〈近代〉の入口と出口の間	ア・イ	ア・イ・ウ				ウ・オ	イ	68		3
	【チェックポイント3】語彙	ア・イ							78		
	科学・技術の歴史の中での社会						エ	イ	80		3
	【ズームアップ】近代科学の功罪			ア					89		
	【探究の扉】科学の現場						イ		90		
	【探究の扉】科学と生命						イ	エ	94		1
	【チェックポイント4】文体と構成	エ							100		
情報と社会	弱いつながり						イ・エ	イ	102		2
	擬似群衆の時代						ア	ア	108		
	消費されるスポーツ						ア・イ	イ	116		4
思考の枠組み	偶然とは何か						カ	ア	126		4
	【ズームアップ】「自由からの逃走」?			ア					135		
	野生の「クジラ」と人間の「鯨」						オ	オ	136		4
	【チェックポイント5】情報の視覚化			イ					146		
	「である」ことと「する」こと						ア・イ	イ	148		4
	【ズームアップ】「近代」とは何か?			ア					168		
考えの表出	胆力について				ウ・エ	イ			170	4	
	「手」の言葉	イ	ア		ア・オ	イ			178	5	
	日本語は非論理的か				オ・カ	イ			186	4	
	【探究の扉】日本的論理				エ	ウ			193	2	
	「安楽」への全体主義	イ	ア		ア・ウ	エ			196	5	
	【チェックポイント6】背景理解と解釈		ア						208		
	【ズームアップ】大衆消費社会			ア					210		
	「いき」の美学	ウ	イ		イ・エ	エ			212	5	
	【探究の扉】「空気」と「世間」				イ・エ				220	2	
	【探究の扉】「世間」とは何か				イ・エ	ウ			225	2	
【ズームアップ】日本文化を理解する			ア					230			
異文化と普遍	超えて行く翻訳	ア	ア				キ	イ	232		3
	「文化が違う」とは何を意味するのか?						カ	オ	240		
	【ズームアップ】文化相対主義			ア					248		4
	学問の政治性	イ	ア				イ・エ	ウ	250		
【チェックポイント7】主張とその前提		ア						258			
情報と知性	生命の知性	ア・イ	ウ				オ	ア	260		4
	【ズームアップ】AIと正しく向き合う			ア					269		
	メディアのテロル						カ	オ	271		4
	【探究の扉】人と共にある図書館の未来は明るい						ウ・キ		278		
	【探究の扉】図書館と「ものがたり」						ウ・キ	エ	282		
【チェックポイント8】多面的な視点		ア・ウ						288			
環境と人間	意志と選択	ウ	ア				カ	ア	290		4
	【チェックポイント9】仮説と検証		ウ						297		
	環境と心の問題						ア・カ	オ	298		4
	エコロジーのミューズを求めて						ア	ア	306		
思索の深化	顔の所有						ア	ア	313		4
	【ズームアップ】「精神」と「身体」は分離できない			ア					320		

	無常ということ						ア	ア	321		4	
考えの表出	人はなぜ働かなくてはならないのか			イ・エ	ウ				327	5		
	【探究の扉】我が国と諸外国の若者の意識に関する調査			イ・エ					338	1		
	【探究の扉】希望を語る			イ・エ	ウ				340	3		
	本歌取り	イ		ア	ア				346	5		
表現編・資料編	報告書を書く			イ・オ・カ	イ				354	6		
	小論文を書く			ウ・オ・カ	ウ				360	3		
	ズームアップ 評論テーマの理解を深める			ア					364			
	表現キーワード	ア・イ							374			
									A 書くこと		52	
									B 読むこと			88
									合計			140